

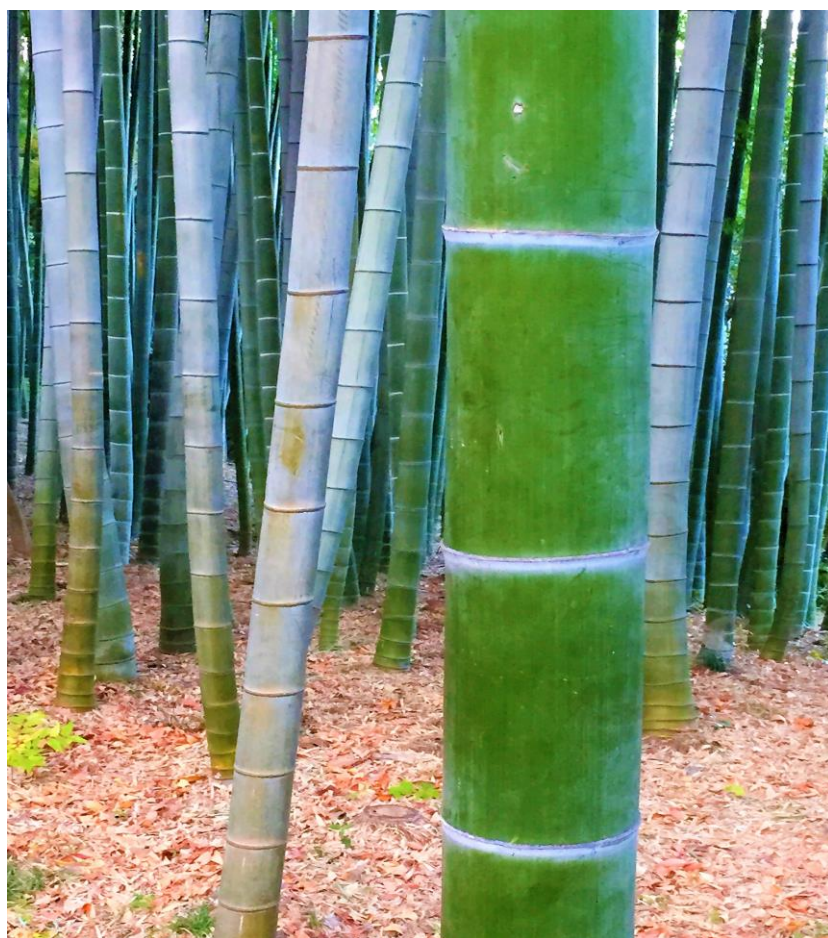
第七十九回フォト句優秀作品（29年12月11日）



茜雲

鎮守の森の

冬木立（浩平）



孟宗の翠に溺れ冬浅し

（晃二）



話途切れ

鴨の動きを

目で追いつ

(和彦)



月と星近づき離れトルコは危機 (アキヤ)

寸評：

1) 茜雲鎮守の森の冬木立 大越 浩平

画像も句も落ち着いた雰囲気だ。茜雲を背景にした鎮守の森のシルエットがなんとも言えぬ郷愁を感じさせる。(原句上5は:ロゼの雲)

2) 孟宗の翠(みどり)に溺れ冬浅し 安藤 晃二

初冬の孟宗竹がこんなに美しいとは。翠に溺れなどという措辞は滅多にお目にかかれない素敵な表現だ。季語も適切。

3) 話途切れ鴨の動きを目で追いつ 大月 和彦

客を降ろしたあとの観光舟の船溜まりへ向かうのんびりとした風景だ。いつものメンバーでの四方山話も尽き、鴨の群れの動きを見ながら次の話題へ話を繋ぐ、落ち着いた“間”が感じられる。

4) 月と星近づき離れトルコは危機 中村 晃也

単純な構図であるが、月と金星を手振れせずに狭い画面に捉えるのは結構難しい。星は米国、月はロシアと見立てると、両者の相対位置はいつも不安定で、バランスのとれた美しいトルコの国旗が翻るのは何時になるのか予断を許さない。



今回は長尾さんの出題、蒲田にある七辻という交差点の写真だ。

1) 七叉路で追っ手を撒いた**かっぱらい** 松田 昌康

確かにここまで逃げてくればかっぱらいも容易には捕まるまい。

かっぱらいという懐かしい措辞をつかったのが受けた。

2) どのみちが**血路か活路か退路**かな 大越 浩平

ここまで来て我が行く道を決めるのは勇氣と決断しかない。

血路、活路、退路と調子のよい言葉を選んだ。

3) この角を曲がり損ねて道外し

長尾 進一郎

人生のターニングポイントではどの道をとるかでその後の人生が決まる。七つも選択肢があると正鵠を射るのは難しい。

誰もが口には出さないが、自分は曲がり損ねたのではないかと心の中では思っている。

4) 信号機立てるとすれば如何せん

池田 隆

七叉路ではどういう交通信号機を立てればよいか？技術屋らしい心配だ。

以 上